

序

わが古代律令国家のシンボルであり、わが国最初の都市ともいべき平城京は、奈良市の西郊から南は大和郡山市域におよび、南北約5 km、東西約6 kmにわたる広大なもので、京内には碁盤状の街路が整然と通り、宮城をはじめ多くの寺院、官衙、邸宅、住居などが藁をならべていたものと思われまゝ。この京内の諸遺跡のうち宮城である平城宮については、文化庁によって公有地化が図られ、発掘調査が続けられるとともに、その恒久的な保存・整備策が検討されています。宮外にひろがる広大な京域については、近年ようやく一部発掘調査が実施されるようになり、京内のほぼ全域に奈良時代の貴重な遺構が存在することが明らかになってきました。

今回奈良県が県営住宅姫寺団地の建設を計画した地は、平城京の左京八条三坊九・十・十五・十六坪にあたり、京の経済の中心ともいべき東市想定地に隣接しているため、建設工事に先立って、奈良国立文化財研究所に依頼して発掘調査を実施しました。その結果、この概報に示されているように、平城京の実態を明らかにする上に貴重な資料を数多く得ることができました。また建設計画の実施にあたっては、この調査の成果にもとずき、東市想定地を緑地公園として保存し、さらに一部設計変更により重要遺構の保存を図りました。この概報に示されている調査の成果が、平城京の研究、ひいてはわが古代史の研究にいささかなりとも役立てば幸いです。

なお最後に、本調査を担当いただきました奈良国立文化財研究所の関係各位のご苦勞に対し、厚く感謝いたします。

昭和51年3月

奈良県知事

奥田良三